

# リウマチ便り

西の京病院 vol. 10  
2020年12月15日発行

文責：森

祝♥10号発行

今年ももうすぐ終わりですね。  
冬支度はどうでしょうか。  
寒さ対策や風邪対策もしっかりしましょうね。  
今回はワクチンについて話しますね。



## 『免疫とは』

感染症にかかると体の中で抗体などが作られ、新たに外から侵入する病原体を攻撃する仕組みのことをいいます。



## 『ワクチンとは』

免疫のしくみを利用したものをいいます。

ワクチンを接種することにより、あらかじめウィルスや細菌（病原体）に対する免疫（抵抗力）を作り出し、病気になりにくくするのです。まれに熱や発疹などの副反応がみられますが、実際に感染症にかかるよりも症状が軽いことや、まわりの人にうつすことがないという利点があります。

ワクチンは、感染の原因となるウィルスや細菌をもとに作られています。成分の違いから大きく「生ワクチン」「不活化ワクチン」「トキソイド」の3つに分けられます。

|                                 | 製造方法  | 接種回数と抗体の量   |
|---------------------------------|---|---|
| 生<br>ワ<br>ク<br>チ<br>ン           | <p>病原体となるウィルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを原材料として作られます。</p>      | <p>毒性を弱められたウィルスや細菌が体内で増殖して免疫を高めていくので、接種の回数は少なく済みます。十分な免疫ができるまでに約1ヵ月が必要です。</p>         |
| 不<br>活<br>化<br>ワ<br>ク<br>チ<br>ン | <p>病原体となるウィルスや細菌の感染する能力を失わせた（不活化、殺菌）ものを原材料として作られます。</p> | <p>自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いため、1回の接種では十分ではなく、何回か追加接種が必要になります。接種回数はワクチンによって異なります。</p> |
| ト<br>キ<br>ソ<br>イ<br>ド           | <p>病原体となる細菌が作る毒素だけを取り出し、毒性をなくして作られます。</p>               | <p>不活化ワクチンと同じく、数回接種して免疫をつけます。</p>   |

## 予防接種の対象

### 「予防接種を必ず受けるべき病気」

ジフテリア、百日せき、破傷風、破傷風性灰白髄炎（ポリオ）、B型肝炎、Hib感染症、小児の肺炎球菌感染症、結核（BCG）、麻しん、風しん、水痘、日本脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症

### 「高齢者や免疫力の弱い人は予防接種を受けるべき病気」

季節性インフルエンザ、高齢者の肺炎球菌感染症



### 「関節リウマチ患者の予防接種はどうでしょうか？」

関節リウマチ患者さんは、病気の進行や治療により外敵から身を守る自己免疫機能が低下することが多く、感染症にかかりやすいとされています。その為予防接種は重要です。インフルエンザや肺炎球菌ワクチンについて主治医と相談の上接種することをすすめられています。生ワクチンは接種するとその病気に自然にかかった状態とほぼ同じ免疫がつくため、関節リウマチ治療中の場合は接種後に感染してしまう可能性があります。特に生物学的製剤を使用している人は気をつける必要があります。

しかし、予防接種を受ければ絶対に感染しないということではありませんので、感染予防の基本である手洗い・うがいは忘れずに行いましょう。



## 「挙児希望（妊娠を考えている）の患者さんへ」

関節リウマチの症状が強いときは、炎症が強いときです。炎症が強いあいだはなかなか妊娠しないことが多いです。もともと関節リウマチ患者さんは妊娠しにくい傾向があります。その為しっかり治療を行い、寛解もしくは低疾患活動性の状態にしないとといけません。

- ・計画的に妊娠を希望する場合は、治療薬の内容により休薬や変更が必要になります。  
(リウマトレックスは休薬して1回月経を見送ってから妊娠を考える)
- ・予期せぬ妊娠の場合は、カウンセリングと精密胎児エコーでの定期診察が推奨されています。産婦人科医に相談しましょう。

### 「妊娠中のバイオ製剤（生物学的製剤）について」

疾患活動性が高い場合は生物学的製剤の使用継続が検討されます。胎盤移行性の低い生物学的製剤 エタネルセプト（エンブレル・エタネルセプト BS）、またはシムジア（セルトリズマブ）を使われる人がほとんどです。

### 「新生児のワクチン接種について」

妊娠後期(28週以降)に生物学的製剤を使用した場合は、新生児が生物学的製剤に曝露（細菌・ウイルスや薬品などにさらされること）されて、ワクチン接種によって影響が出た症例が報告されています。妊娠後期に生物学的製剤を使用した場合は、新生児への生ワクチン接種（ロタウイルス、BCG、MR（麻しん風しん混合）、おたふくかぜ、みずぼうそうなど）は生後6カ月以降に延期するようにしましょう。

